

日本大学

《 日本大学の教育 》
「自主創造」

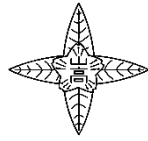
《 日本大学教育憲章 》

●日本大学マインド

- 1 日本の特質を理解し伝える力
- 2 多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力
- 3 社会に貢献する姿勢

●教育理念

- 「自主創造」の
3つの構成要素
- 1 「自ら学ぶ」
 - 2 「自ら考える」
 - 3 「自ら道をひらく」



令和3年度
「学校経営・運営ビジョン」

日本大学山形高等学校

知育 徳育 体育

日本大学山形高等学校

《 教育の目的 》

本校は、教育基本法及び学校教育法の趣旨にしたがい、心身の発達に応じて人間として調和のとれた生徒の育成を目指し、中学校の課程における教育の成果を更に発展拡充させるべく、高等普通教育を施すことを目的とする。

《 教育方針 》

- 1 豊かな情操と信愛の心に満ちた品性ある人格を養う。
- 2 自ら真剣に学習し、知識を高め、深い教養を身につけるよう努める。
- 3 心身を鍛錬し、いかなる試練にも耐え得る強い精神力と身体を養う

I 授業力の向上と学習習慣の確立

1 授業力の向上

- ① チャイムとともに授業を始め、チャイムとともに授業を終えることで50分の授業の中で効果的な学習内容の定着を行う。
- ② 習熟度別授業・課外授業を推進する。
- ③ ICT教育をより発展的に推進し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けていく。
- ④ 授業の相互授業参観を推進するとともに、外部研修を活用し、教員自らの授業力向上を図ることで、新しい大学入学者選抜に対応していく。
- ⑤ 問題検討会を充実させ、大学入試につながる定期考査の内容や難易度の改善を行う。
- ⑥ 模擬試験の分析結果を踏まえ、担任及び教科担当者が情報を共有し、学習内容の重点化等、授業の改善を図る。
- ⑦ 各教科で生徒の進路を見据えた効果的な学習指導を行う。

2 学習意欲の向上と学習習慣の確立

- ① 家庭学習を習慣化させるとともに、主体的で、能動的な学習習慣を身につけさせる。
- ② 予習・復習の重要性とその方法を授業で十分に理解させるとともに、定期的な予習や復習の確認を行う。
- ③ 家庭学習や授業内で、オリジナル教材を活用し大学入試における基礎力を育成する。
- ④ 保護者との連携を密にし、進路意識の高揚と家庭学習の促進を図る。

3 キャリア教育の工夫

- ① 卒業生による合格体験記・講話等により学習方法を考えさせるとともに、学校行事「進路説明会」や大学のオープンキャンパスなどとおして、自らが歩むキャリアや働き方を見極めさせ、進路意識の高揚を図る。

4 生徒の発達段階に応じた面談の工夫

- ① 二者・三者面談を契機として、生徒の学習・生活状況から、キャリア発達に基づく出口を見据えた適切なアドバイスを行う。

II 心に響く・生徒と向き合う生徒指導の実践

1 基本的な生活習慣の確立

- ① 教員・生徒ともに挨拶を励行する。
- ② 遅刻防止・服装頭髪の指導を徹底し、自律的で基本的な生活習慣を確立する。
- ③ 携帯電話の使用マナーを徹底するために、生徒の自覚を促すとともに、保護者の協力を得る。
- ④ 授業、特別活動、部活動とも生徒指導の最適な機会と捉え、共通理解に基づいた積極的な指導にあたる。

2 健康な心の育成

- ① 不登校や学校不適応等の兆候を早期に把握し、保健衛生部（生徒生活支援係）及び生活指導部を中心として学年で情報の共有化を図るとともに、生徒や保護者との教育相談やカウンセリング等を積極的に行う。

3 安全対策の推進

- ① 生徒が事件・事故等に巻き込まれぬよう、生活指導部を中心に情報の共有化を図るとともに、Classiにより注意喚起の情報を適宜発信する。
- ② いじめ発見調査アンケートの活用により、その兆候を早期に発見し、全教職員が共通理解を持って対応する。

4 主体的で、協働的な活動の育成

- ① 部活動や生徒会活動などで他者と協働しながら主体的に課題を解決する態度を育成する。
- ② 地域でのボランティア活動など、社会活動への主体的で協働的な参加を促し、自己肯定感や達成感、社会貢献心の高揚を図る。

III 魅力ある学校づくりの推進

1 保護者や地域、大学、諸団体との連携推進

- ① 新入生の移行期の教育活動に資するため、中学校との連携を密に図る。
- ② Classiを活用し、保護者会総会、学年会、進路説明会等への保護者や関係者の積極的な参加を促す。
- ③ 地域や中学校に、本校の魅力や教育活動を伝えるためホームページを充実させる。
- ④ 魅力的な学校案内を作成するとともに、学校説明会をおして本校の魅力や特色を発信する。
- ⑤ 保護者会・同窓会・日本大学校友会と連携を図りながら、キャリア教育、生徒募集等を充実させる。さらに、豊かな人間形成に資する正課外教育の促進するため、UIターン正課外教育においても連携を図る。
- ⑥ 日本大学及び山形大学や他の大学と連携しながら、探究的な学びや進路指導体制を強化する。

2 カリキュラムマネジメントの推進

- ① 生徒の進路希望の実現のためカリキュラムが効果的なものとなるよう常に、教育改善のPDCAサイクル等を構築し改善を図る。
- ② 新学習指導要領に向けての教育課程の編成を計画的に行う。
- ③ 持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた研究（持続可能な開発のための教育（ESD））を推進する。

3 教育活動環境の整備

- ① 教室内の整理・整頓、校舎内外の清掃を徹底し、学習に集中できる環境を整える。
- ② 施設・設備の点検や整備を常に行い、安全で安心して学ぶことのできる教育環境を整備する。

4 危機の未然防止と対応

- ① 学校において発生する様々な危機から、生徒及び教職員等の安全の確保を図るために危機の未然防止に努める。
- ② 危機が発生した場合は『危機管理マニュアル』によって対応する。
- ③ 事後の危機管理として、校内の体制の点検・再構成、『危機管理マニュアル』の見直しを図り、再発防止に努める。